

静岡県漁業協同組合連合会
1078 静岡市追手町 9-18
16.1.30 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 本会第8回理事会、第7回監事会を開催

本会では去る1月20日理事会を開催し、役員欠員に伴う理事1名、監事2名の補欠選挙の結果(既報)を報告するとともに、平成15年度第3・四半期事業状況の報告等を審議し、承認を得ました。

当期の事業内容は、景気回復の兆しが見えてきたものの、依然として漁業・漁協系統組織では厳しい経営を強いられている中、当初計画に沿って各事業とも重点推進事項に役職員が一丸となり取り組んできた結果、事業総取扱高は53億98百万円(計画比76.0%、前年比101.7%、以下同じ)、事業総利益は3億96百万円(76.0%、100.1%)の概ね計画通り、昨年並みの成績を上げることができました。更に人件費の抑制等管理費の節減により経常利益は1千2百万円(29.2%、506.9%)で昨年を上回る利益を計上することができました。

これを部門別に見ると、経済事業の購買部門では石油類が内外の情勢変化の中で不安定な価格で推移したものの昨年並みの取扱量と利益確保ができ、資材類も配合餌料の取扱を販売部門から移した執行体制の下で漁港・港湾関連資機材への取り組みを積極的に推進してきた結果、全体的に取扱高及び利益ともに昨年を上回ることができました。また販売部門は、数年来の取扱高減少に歯止めを掛け適正利益の確保を図るため、本部に推進役を配して既存事業の見直しはもとより、地場産鮮魚介類の取扱を重点に取り組み、定置網鮮魚や浜名湖産アサリ等の出荷事業を立ち上げるとともに、インターネット通販ショップ「静岡おさかなバザール旬鮮」を開業させるなど事業化に向け新たな事業展開を試みているところでありますが、浜値の引き上げには繋がってきてはいるものの事業成果を生むまでには至らず、全体として昨年並みの実績となりました。天草共販事業は取扱数量の大幅減で本年度の漁期を終了したことで手数料収入は計画・昨年比ともに大きく下回りました。更に施設利用部門は、不動産賃貸が計画通り推移してきているものの旅行事業の取扱減少により粗利益では昨年を若干下回りました。

一方、指導事業では海の子フェスタの開催や漁協組合長会議の決議に基づく各種課題に対する請願活動、更には漁協合併への取り組みや県下漁協の経営収支悪化の進行に伴う経営改善指導への対応等を報告、続いて温水利用委託事業の種苗生産の経過と当施設の移転工事について進捗状況を報告しました。

なお、当日は理事会の前に監事会が開催され、補欠選挙後における代表監事の互選を行った結果、新たに久米勇氏(吉田町漁協代表理事組合長)が選出され同日付で就任いたしました。

2. 県水産試験場100周年 水産研究発表会・記念祝賀会開催される

県水産試験場は明治35年11月、県議会で設置が決議されたあと、翌36年4月に農商大臣の許可を得て、全国で25番目の水産試験場として設立され、淡水養殖の普及を目的に、

明治37年1月22日、浜名郡新居町に施設を完成させて、同月28日に業務を開始して以来、満百年を迎えました。水産試験場百周年記念として、去る1月21日県水試本場で恒例の水産研究発表会において、「水試研究百年の歩み」と題して幡谷雅之県水試浜名湖分場長による特別講演が行われ、引続き7課題の研究発表が行われました。

続いて会場を焼津グランドホテルに移し、水産OB会(水産関係県職退職者の会)主催による、県水産試験場百周年記念祝賀会が県知事、県会議員、漁連、信漁連、内水面漁連、加工連、漁協、水産加工協などの水産関係団体役職員、県農業水産部長・水産総室長、歴代水産課長、水試OB等約150名が出席して開催されました。

祝賀会では、石川嘉延県知事の挨拶の後、水口俊太郎県会議長(八木健次県議会議員代読)、本会西川会長、森實孝郎東京穀物商品取引所理事長が夫々祝辞を述べ、戸本隆雄焼津市長の音頭で乾杯が行われました。

この後、水試OB野中忠氏、小長谷輝夫氏と幡谷雅之分場長のスピーチを挟み、村松高明県水産試験場長の謝辞の後、佐藤吉明信漁連会長の三本締めで閉会しました。

3. 魚をよく食べると死亡の危険度減少

滋賀医科大学の中村保幸助教授(循環器内科)らが80年に旧厚生省が実施した国民栄養調査の対象者約1万人(30~64歳の男女)について、19年間追跡した調査結果によると、2日に1回以上と魚をよく食べる男の人は、食べるのが週1回未満と少ない人に比べて死亡の危険度が3割前後減っていることが明らかとなりました。

結果を集計すると、男性では、魚を食べるのが「週1回未満」の人が死亡する危険度を1とすると、「2日に1回」は0.7、「1日に1回」は0.75、「1日に2回以上」は0.67と、頻繁に食べる人の死亡危険度が低く、さらに、心筋梗塞と脳梗塞で死亡する危険度も、魚をよく食べる方が低い傾向が見られました。女性では有意な差は見られませんでした。この間の死亡率が男性より低いためではないかとみえています。

また、同様の調査は海外でもいくつかありますが、魚はドコサヘキサエン酸(DHA)やエイコサペンタエン酸(EPA)といった不飽和脂肪酸を多く含み、これらは動脈硬化を防ぐ働きがあるとされ、今回の結果で、魚をよく食べることが日本人の長寿の理由の一つであることがはっきりしたとしています。

4. 県TAC(漁獲可能量) 12月末漁獲実績を発表

県では、この程TAC対象4魚種の12月末現在の漁獲実績を発表しました。

それによると、サバがTAC数量12,000トンに対し11,463トンで消化率95.3%となり、TAC数量が若干量の魚種では、マアジ2,296トン、マイワシ3,437トン、スルメイカ391トンの漁獲量となり、サンマは64トンの漁獲量となりました。

5. 諸会議日程(2月3日(火)~2月16日(月))

- 既報分省略 -

2月6日(金)	県機船底曳網漁業組合 = 監査会	(浜名漁協)
2月10日(火)	県JF共済推進本部 = 焼津地区推進協議会幹事長会議	(焼津漁協信用部)
2月12日(木)	" = 沼津地区推進協議会幹事長会議	(内浦漁協)
2月13日(金)	" = 榛原地区推進協議会幹事長会議	(地頭方漁協)
"	県棒受網鯖釣漁業組合 = 通常総会	(伊東市)